

資料3 中心市街地の将来像について

- ・中心市街地活性化のための方針、目標(第3回委員会資料参照)にもとづいて、将来、中心市街地をどのようなまちにしていきたいのか「将来像」を設定します(下図参照)。
- ・この将来像に基づいて、具体的にどのような展開を図っていくべきか、活性化していくための戦略イメージ(資料4)、活性化事業(資料5)を設定していきます。

- ◆交流・居住ゾーン
- ・昼夜を通じた賑わいを創出するために、商業、業務、娯楽機能の集積を推進していく
 - ・また、これらと調和しながら、良好な居住環境を創出し、職住近接の受け皿としての中低層の住宅地を形成していく。

- ◆多様な都市機能集積ゾーン
- ・行政機能の立地や企業のオフィス等の業務機能の集積を推進していく
 - ・また、福井城址や中央公園などの都市福利施設の有効活用を図っていくことによって、歴史・文化的な機能を向上させる

- ◆居住推進ゾーン
- ・良好な居住環境を創出するために、商業、業務機能等との調和を図っていく。
 - ・また、商業、業務など、職住近接の受け皿として、中高層の住宅の配置を促進していく

- ◆地区主要骨格軸
- ・中心市街地のメインストリートとして、歩行者、自動車等の通行環境の維持を図っていく
 - ・鉄道による中心市街地への来街環境を向上させる
 - ・フェニックス通りや中央大通りを中心に魅力ある都市景観の創出を図っていく

- ◆歴史のみち、及び拠点
- ・福井城址、柴田神社など、中心市街地の歴史・文化の拠点を形成していく
 - ・福井城址については、周辺の施設等の活用・連携を図りながら拠点を形成していく
 - ・また、拠点間を結ぶ道路を「歴史のみち」と位置づけ、福井の歴史・文化を感じさせる環境を創出することによって、来街者などによる拠点間の回遊性を高めていく

- ◆快適な都心居住・交流推進ゾーン
- ・都市の利便性を享受し、足羽川、足羽山などの福井の自然に触れ合うことができる都心居住を推進する
 - ・また、福井に訪れた人をもてなし、交流を深めることができる商業機能の向上を図っていく

- ◆都市機能集積ゾーン
- ・A O S S Aや福井駅西口中央地区再開発事業など、広域的な商業、業務、文化機能等の集積を推進していく
 - ・JR福井駅を中心として多様な交通手段によって来街できる交通結節機能を集積していく
 - ・駅や商店(街)などが直近部にあることの利便性を生かした都心居住を促進する

- ◆歩行者動線軸
- ・A O S S A、西口再開発ビル、響のホール、福井西武を中心とした「歩行者動線軸」として位置づけ、この軸での店舗等の魅力向上や及び、歩行者に配慮した回遊性の向上を図る
 - ・歩行者動線軸の効果を周辺商業地へ波及させるために、回遊性の向上や個店の魅力向上を図る

- ◆地区骨格軸
- ・中心市街地内の歩行者、自動車等の通行環境を向上させる。
 - ・中心市街地東側からアクセス性を高めるために、歩行者、自動車等で来街しやすい通行環境を向上させる。

- ◆にぎわい創出ゾーン
- ・大型店や専門店、飲食店など多様な業態の商業機能の集積を推進し、中心市街地内外からの来街を図っていく
 - ・響のホールを中心に、文化機能の集積を推進していく
 - ・地区主要骨格軸とともに、魅力ある都市景観の創出をはかっていく(中央大通り、駅前電車通り、アップルロード周辺)。

